

北條左衛門大夫ガ地質八幡ノ差物ヲ捨タルヲ源次郎賜トアリ難波
隠岐守ハ黃色旗ニ八幡加津野氏ノ跡目トナル
加津野氏傳 壬午、後復本氏幕府ニ奉仕、小田原大坂等ノ役ニ御使番ヲ
勤ム昌幸ノ男伊豆守信幸一作之幸初名源三郎天正壬午十七歳也次男源
次郎後稱左衛門佐一名信實、幸村ニ作レリ時々更レ之カ壬午、時十三歳二
人ノ事武名高シト雖モ本州ニハ與カラズ故畧之○矢澤薩摩守頼綱
一德齋、弟初、右馬助綱隆、矢澤ニ居ノ氏トス慶長四亥年卒ス男但馬頼
棟其男外記頼清又稱但馬、滋野世記○常田出羽守隆永 其男圖書助
是モ常田ニ居ノ氏トス一德齋ノ弟ナリ下郷起請文海野衆ニ常田七
郎右衛門綱旨、下屋與三左衛門棟吉アリ軍鑑作時田ハ非也○羽尾治
部少輔景幸 滋野族上州三原地頭羽尾ニ住スル者末葉景幸ニ三男
アリ長ハ治部幸世入道道雲天正九年岩櫃ニテ戰死次ハ海野長門守
幸光、同能登守輝幸二人吾妻郡守護代トナレリ輝幸男中務幸貞矢澤
小幡山城守トアリ蓋之ヲ云カ其男ハ原郷右衛門大坂ニテ戰死、原氏
ニ縁アル事ハ彼記中ニ出ヅリ○海野三河守幸貞 下郷起請文ニ花

押アリ軍鑑、永祿四年、誅海野以龜寶爲名、取ト蓋、非ナリ、西記、全十一年ノ事
全記ニ桑原式部康盛、同藤左衛門宗榮略下又海野伊勢守幸忠、同平八郎
信盛アリ海野衆十二人名押ヲ記セリ其内小草野若狹守隆吉見タリ
軍鑑、奥座ニ作レリ海野家老本、百貫加増千貫龜寶ヲ陣代ニ定ムトアリ
未詳可否凡信玄ノ息子昌他姓ハ海野、諷方、仁科、葛山等姑假テ稱其
氏爲親族衆ノミ本家ハ如故立置ク事ト見タリ猶以他宣訂定況ヤ
龜寶ハ亡明人ナリ軍鑑各其家跡ヲ押領スト謂ヘルハ蓋非ナルヘシ
○福津氏 幸恆、一男小次郎直家ヨリ出ツ世々小縣郡福津又作根津ニ住
シ遂ニ氏之 後冷泉院、御時福津左衛門尉道直、男神平貞直ハ出羽前
司源齊頼ノ甥トナリ蒼黃書式ヲ傳授ス世所謂福津流鷹術ノ名家是
ナリ天文中福津宮内少輔名元直、義直、元直等ノ異本州ニ歸シ於長篠戰
死、其男ハ助右衛門ナリ宮内少輔ノ弟美濃守除髮号松鶴軒常安常安名
見下郷起請文并福津家中九人名押アリ但松鶴軒ニ作東新居村百姓所藏
永祿十卯年天正七卯年所授松鶴軒ノ武田印書二通ヲ校スルニ上州
箕輪、信州飯山等在城ニヨリ多給増地趣ナリ壬午、後幕府歸ス其男鶴

千代改五郎信政稱美濃守慶長七年正月加増ノ賜壹万石男神平吉直
寛永三年四月天テ無嗣收公セラル大坂役ニ吉直幼ニ小花和太兵衛
山城守是平子小五郎是壬午起請文原隼人衆福津官内トアルハ松鶴
軒二男志磨守幸直ヲ云ニヤ子孫松代藩中ニ在リ○望月氏 幸恒ノ
三男三郎重俊ヨリ續テ世々佐久郡望月ニ住ソ爲氏鎌倉ノ時望月三
郎重隆同餘一師重武名アリ下郷起請文ニ遠江守信雅アリ後文書ニ
遠江入道トモ見タリ軍鑑古典殿二男望月氏ニ入贅セシ事ハ親屬部
ニ記セリ同甚八郎重氏軍鑑天文中ヨリ見タリ本望月弟ナリ長篠ニ
テ戰死トアリ○小室氏 滋野姓ナリト云東鑑小室太郎光兼同小太
郎實光同左衛門尉師光アリ源平盛衰記ニ太郎忠兼小太郎實光ニ作
レリ室或地名佐久郡ニ在リ或云天文頃ハ大井伊賀守光忠云者居之
トナリ○會田小次郎幸元 後ニ小次郎廣政トアリ塔原三郎氏廣田
澤四郎氏勝借屋原五郎氏重男借屋原五郎氏治清光六郎氏賴以上
五人海野幸繼ノ庶男ナリ管村名筑麻下屋大藏西窪鎌原地名在上北名那
腰羽尾赤羽今井蘆生田等ハ下屋將監幸房ヨリ出ツ又根井大關太行

親モ同氏ナリ男小彌太某、嫡六郎親忠、八島天文ノ頃根井青雲入道云者
アリ

一青柳近江守清長同伊勢守賴長 天文中本州ニ屬ス仁熊某清長、豐ト云
能男ナリ小岩嶽大和田壬午後小笠原貞慶入部シテ會田、青柳、麻績三氏
ヲ誅ス

一麻績勘解由左衛門尉清長 下郷起請文ニ見タリ軍鑑甚右衛門傳云本
氏服部ナリ麻績式部大夫天正十一年八月十日亡ト又小笠原長房男
麻績四郎長親アリ東鑑承久記同六郎見タリ未考

一大井太郎朝光 小笠原小次郎長清ノ七男ナリ東鑑所載大井兵三次
郎實治大井組右衛門實平等ハ舊國士ナルヘシ信濃有大井庄二所長
清受封信州分佐久郡大井庄以爲朝光邑居于岩田村嘉祿元年三月卒
其男又太郎光長松原社説銘佐久郡大井庄落合村新善光寺弘安二年卯
庄大貳局領ナリ朝
光爲家跡故云之太郎子孫本郡ニ蕃延シテ天文ノ比至ル○大室 大井
彦太郎時光ノ後ナリ○小室別ニ出 岩尾長土呂ハ大井彈正行滿○
耳取ハ大井民部少輔信直大宮神馬奉納
記少輔作亮○森山ハ森山豐後守滿繁同

神五郎信濃介（事蹟並分脈の事概ね上卷に述ぶ）○東衛澤七郎是澤氏の祖也新大夫行長の男なり○有行岩波太郎是岩波氏の祖也行助の一男とす○行賢諱方四郎と曰ふ有行の弟也○行景諱方八郎と曰ふ行賢の弟なり○行兼濱左工門尉是濱氏の祖にて行賢の男なり○行宗平林九郎と稱す行景の男なり○能宗平林太郎是平林氏の祖にして行宗の男なり○敦眞諱方太郎と曰ふ敦眞の次男なり一に諱方郡茅野郷に館す舊址今に存し太郎殿屋敷、太郎殿川と曰ふ其男光親茅野氏の元祖たり之れ父の遺領を家號となせし歟○敦家松林伊那郡に住、鷹の上手にて敦眞の弟也○貞澄大六、檢校の弟也○範方諱方四郎と曰ふ大範方の次男也○光家中島五郎と稱す範方の弟なり○貞正八郎と曰ふ中島五郎の弟なり○範貞諱方太郎と曰ふ八郎貞正の弟なり○清貞諱方次郎桑原の祖歟大範敦光の弟なり○金法丸、桑原清貞の弟なり○貞直諱津神平本姓者雖爲遊野自母胎有神告約神氏は出羽前司源齊親の甥となり若貴の舊式を傳授す世に所謂津流流儀の名家は也と云々源滿政の孫、左衛門尉從五位下忠隆の嫡男從五位下出羽守左衛門尉廣術連人（以上大系圖、武家評林、遊野世記、甲斐國志等參照）○貞盛矢崎神太住諱方郡矢崎眞の男也○親貞藤澤神太居伊那郡藤澤東麓等に數する所の藤澤家の事歟○家直矢島神六檢校敦家の一男なり○敦親西保余二と曰ふ家直の弟なり○頼門眞志野十郎と稱す敦親の男なり○頼助藤間兵衛尉と曰ふ眞志野氏の弟なり（或人曰ふ藤間は波間に變誤せしには非ず歟と）○敦俊知久十郎左工門尉知久の祖也大範敦光の男とす次は敦平知久四郎左衛門尉入道行性次は敦長知久左衛門尉入道行安次は敦宗知久左衛門尉と次てたり（一連寺過去帳永享八年の條に頼阿彌陀佛知久應永廿八年五月尉敦宗の男なり（或人曰ふ垣原後に楠澤に轉誤せし歟と）○助忠一作盛忠小阪左近將監居諱方郡小阪是小阪氏の祖也大範敦未親御覽之繪也致媒介可借進之由被仰畢可申越之由申上云云同十二月一日諱方緣越之繪（十二卷繪詞は延文中小阪助忠四代諱方大進圓忠の成案にして圓忠子孫數代何れも左近將監と稱し康富記實名無れは知るに由なし止本書諱方將監は圓忠の子孫なりと信するのみ）可借進之由自伏見殿被仰諱方將監候する間其由可申合傳仰今日持參之間即同道參伏見殿候縁幸禮供進上之庭田少將被取職之被悅思合之由有仰金襴輪一振被下とあり諱方將監は蓋し此人の子孫ならん歟云云○有光有賀次郎と曰ふ大範敦忠の弟なり○敦經平井出三郎大夫と曰ふ有賀氏の弟なり○敦義神內馬允（按神内は河内なるべし）平井出氏の弟なり○敦助諱方余次と曰ふ知久敦俊の弟なり○義忠諱方次郎永久渡亡大範敦忠の男なり○敦重宮所四郎伊那郡の住人にて義忠の弟なり○信成左衛門尉と曰ふ大範敦光の次男也○次郎○三郎二氏大範敦忠の弟とす○重高船部允と曰ふ大範盛重の次男なり○頼直重名宇禮志房本と成時と稱しき元澤五郎是也船部允の弟なり○敦頼順七郎と曰ふ元澤氏の弟なり○頼盛八郎と曰ふ敦頼の弟なり○頼重中島余次と曰ふ頼盛の弟なり○高重小次郎と曰ふ河津權守頼重の次男なり○高繼孫太郎と稱す高重の弟なり○貞頼四郎と曰ふ高繼の弟なり○万歳、四郎貞頼の弟也○某三郎越前守と曰ふ大範信貞の三男なり○信滿安藝守住上原法名一雄舊記の斷片に應仁元年内縣介上桑原安藝守信滿勳代官矢崎殿正月十一日御符禮壹貫（下略）云々とあり之れか○政滿刑部大輔法名雪庭常惠安國寺過去帳には常惠とす（站澤氏曰ふ或る文書の斷片に祝殿むはんにて屋形を討まらせたることといふ口をし祝殿は神の子孫といふことを古入道殿にも家の日記にかきうへて傳へ侍る血縁のいみ凡人のふるまふ末代神の御料もたろろしきことなり又神長滿實日記文明十五年正月の記事詳也云々）諸條に政滿從五位下信滿守に叙任諱方郡下社大範高家の爲に祝殺せられ且つ所領を奪はる此の事或は文明十五年正月とし或は明應二年正月八日とす今茲に記して本文の參考に供す）○滿隆薩摩守住高島城大範世家部刑部大輔頼重禮に載する所の高島城主とす軍艦等には左馬允に作る誤りなり或舊記に佛法寺住侶賢聖は諱方薩摩守子と有り云々之れ歟○於兒頼隆の末子なり○頼重夫人勝山記に天文九庚子年武田殿御息女様信州諱方殿の御前に御なをり候同十一年壬寅六月諱方殿へ取掛け武田殿切勝被食候て諱方殿を生捕に被成府中にて兄弟腹を御切り候とあり飯田系圖に諱方に嫁せしは信虎の第六女彌々御料人同十二年正月十九日十六歳にて逝す法名玉芳妙貴と記せり一本武田系圖にも同斷の趣を載す站澤氏曰諱方古系圖に彌々御料人は天文十一年八月十一日丸法名圓珠院宗溪英幸とあり云云一連寺過去帳に就て閱するに諱方 字溪英幸大始天文十一年八月廿一日とあり圓珠院の三字なし十一日を二十一日とす年月日並に法名の差異あり暫く併記し以て他日明據を得るを俟つ○女子、頼重の長女母は小見氏武田四郎勝頼の母也一

未考^{ヤ否}（以下次卷）

○小平氏（舊上内管澤ノ）

欽定四庫全書